

令和4年度秋田県放課後児童支援員等資質向上研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

県北会場

科目 ②子どもの権利条約

- ◆ 子どもの権利条約について学びました。私が子どもの時は、大人が決めたルールや校則に疑問や不満があっても何も言えませんでした。大人になった今は自分の意見を伝えることができます。海外では生徒と先生が意見交換をして、よりよい環境をつくっていることを知りました。学童でもルールやお約束がありますが、子どもたちと一緒に子ども目線で話し合い、新しくルールやお約束をつくってみたら良いのではないかと思います。
- ◆ 子どもの権利条約が制定されたのはごく最近で、日本ではあまり守られていない現状を知りました。世界に比べて日本の子どもは自己肯定感が低く、精神的に窮屈な生活をしているのだと思いました。子どもの主張をわがままと捉えるのではなく、意見として取り上げ、大人と子どもが互いに論理的に話し合うことが大切だと思います。その中で責任をもつことや他者の権利について学び、自己受容を高め、自由を行使できる大人になれるのだと思いました。
- ◆ 私たちは子どもたちを自分たちの思いのままに動かそうとしがちですが、子どもにも大人と同じ自由が保障され、「意見表明権」も認められています。そのことを踏まえ、私たちは子どもたちの主張を認め、上手に主張できるように手助けをしていかなければならないと思いました。大人の「子どものため」は大人の発想を押しつけている時もあるので、子どもの意見を聞く余裕も私たち大人には必要かもしれません。
- ◆ 子どもの権利条約について、今まで詳しく学んだ（意識した）ことはありませんでした。ビデオでフランスの子どもたちが自分の考えを堂々と発表し、大人と対等に校則や環境の見直しについて話し合っている姿に驚きました。小さい頃から自分の考えをもち、論理的にものを言えることの積み重ねだと思います。権利が認められることにより、責任も伴いますが、講義の中であった「聞くことより聴くこと」等を大事にしていきたいです。
- ◆ 普段子どもたちと関わる中で、つい行動を先読みして失敗させないような言葉がけをしてしまう時があります。しかし、それだと失敗を恐れて挑戦しよとしなくなったり、途中で諦めがちになってしまいます。今回の研修で豊かな失敗体験を積むことが教育や子育てに求められていることが分かりました。自分たちの都合を子どもに押しつけるのではなく、子どもが考えていることを大切にしながら今後の支援に役立てていきたいです。